

市町村における母子保健事業の効果的実施に関する研究

分担研究者 高野 陽

本分担研究班に与えられたリサーチクエスチョンは、

- (1) 保健所から市町村に母子保健業務を円滑に移譲していく方法は如何なる方法か。
- (2) 市町村で母子保健業務を行なうに際して、最も効率的な人員配置はどのようなものか。
- (3) 保健、医療、福祉の連携はいかにあるべきか。

である。

最終年次になり、昨年度のリサーチクエスチョンのなから、「市町村に担当職員がいない場合、歯科、視聴覚、栄養、心理等の健康診査や指導はどのような内容で、どのような支援体制をくむべきか」が削除された。今回の母子保健法の改正に基づき、基本的母子保健サービスを市町村に移譲する際の最も大きな課題は、マンパワーに関することであることが明らかであった。この研究班編成時の初年次において、すでにこの課題について重要な問題として提示しており、昨年度の2年目においては保健婦の保健指導の能力、小児科専門医のいない地域における一般乳幼児健康診査の方法、神経学的診察に関する調査を行なった。最終年次に至っても、この課題の重要性を鑑み、継続的に研究を行なうこととした。

本年度は最終年次にあたり、基本的な方向性を求めることが必要であるとともに、各市町村で具体的に事業を実施していく際に有効と思われる内容の提示も我々に課せられた課題であると考えた。それ故、研究実施計画においては、保健政策的背景に基づいた市町村への円滑な移譲の意義を示し、各地域における個々の特性に応じた母子保健サービスの実施方法の策定を図り、全国的視野でのモデル的方法を確立することとした。この見地に立ち、研究内容の担当を以下のように決めて実施した。すなわち、

- *保健政策的視点からみた市町村における母子保健活動の意義（小野寺伸夫）
- *地域特性に応じた母子保健活動の策定（小渡有明・牧野ゆり子・北島智子）
- *地域特性、マンパワーを考慮した母子保健サービスのモデル的方法の確立（柳川 洋・千葉 良・鈴木五男）
- *専門職のいない地域の母子保健サービスのあり方（高野 陽・宮里和子）
- *保健・医療、福祉の連携（千葉 良・高野 陽）

各分野において、個々の研究協力者がさらに適切と思われる人材を加えて、広範囲からの研究を行ない、内容の充実を図った。特に、モデル的方法の検討にあたっては、できるかぎり現実的な方法とこれからの母子保健上の必要と思われる課題を取り入れた内容を基盤に研究を行ない、各市町村における実践に有用なものとなるように配慮した。さらに、平成9年度当初からの母子保健サービス実施にも有効な資料となることを配慮し、できるかぎり早い時期に報告書の完成を心掛けた積もりである。

さて、個々の研究内容の概要は、

- * 小野寺は保健政策路に基づく母子保健計画の策定の方向性を、
 - * 柳川は人口規模別の保健サービス実施における人員配置を推定し、
 - * 千葉は乳幼児期の各時期の具体的な健康診査の方法について、主として導入すべき内容の検討を行ない、さらにその際の配置員数を求め、
 - * 高野・宮里及び鈴木は専門職の未配置状況下における保健指導体制について、保健婦の指導すべき内容とその方法を検討し、
 - * 小渡・牧野及び北島は各地域の今後の方針を策定し、
 - * 千葉は保健福祉の連携を健康診査に求めて検討し、
- それぞれ報告している。